

輝くこの年 誇りを持って進もう！

会長 鈴木 精成

明けましてお目出とうございます。

ご家族お揃いで良き年をお迎えのことと

存じます。

「木末の楼台晴れて始めて分かる」(「彦山」

広瀬淡窓)のとおり、まさに昇る陽に視界が広がる気分です。

昨年は、飯田精鷹初代会長始め六人の吟友の計報に接し深い悲しみに包まれた年でありました。

故人皆様のご功績を偲びつつ、心からのご冥福をお祈りいたします。

昨年のは「家元吟道八十周年・宗家就任十周年記念吟道大会」を中心に大きな盛り上がりがあり、我が千代田の吟友も大挙二四二名が大会に参加致しました。大会はこれまでになく、内容の濃いものであり、参加された皆様が深い感動を覚えたものでした。

そして後半の取組みは「第四七回全国吟剣詩舞道大会」合吟コンクールへの男子単独、女子本部チームでの参加でした。それぞれの練習は熱意と連帯の取組みで、この機会を通してお互いの吟力向上につながった実りの多いものでした。結果は、男子チームは今一歩で残念でしたが、本部女子チーム参加の九人の皆さんが見事三位入賞の栄冠に輝いたことは大きな喜びでした。コンクール参加の皆さんが、この機会を通じて練習と連帯の成果を今後に生かすよう期待いたします。

十一月十五、十六日に実施された「下田吟行会」は七五名の参加で大いに盛り上がりしました。久しぶりの企画で、担当の吟楽部門 石田勝山・太田龍翠両氏には大変なご苦勞をいただいたと感謝申し上げます。会下田岳精会会長の以下、会員の皆様の並々ならぬお世話をいただき、参加者一同、感動ひとしきりでした。研修会での渡邊豆泉先生(下田岳精会)の「今、なぜ、山頭火」をテ

ーマの講義は参加者全員が深い感銘をもって拝聴しました。その感動が引きつがれた磯田精信常任顧問の研修も大いに盛り上がりしました。「懇親会で初めて〇〇教場の△△さんとお話をしました。楽しかったです。」これが「吟行会」開催の意義です。大事にして次へ繋げたいです。

色々な成果をもって平成二十七年を終え、ここに平成二十八年を迎えました。

いよいよ「千代田岳精会創立三十周年記念吟道大会」の年です。十一月二十日(日)に向かって千代田全員が集結する秋です。この年が「記念イヤー(Year)」になるようそれぞれの立場で意義ある時を過ごしたいと思います。

今年、このような計画で取り組みたいと提案します。

スローガン

「輝く千代田 三十誇りを持って明日へ！」

一、「千代田岳精会創立三十周年記念吟道大会」開催本番の年を一歩一歩着実に進めよう。

二、記念の年に相応しい教場体制を築こう。

”現状のまま“の教場は”後退“になる。

三、諸研修をしっかりと実施しよう。

四、「昇伝審査会」(四月二十四日)へ全員参加しよう。

この程、ある会員さんの友人へのアプローチが九州で花開こうとしています。新たな教場づくりのきっかけになるかと、嬉しい知らせを待っています。

岳精流日本吟院

ちよあ

第 5 3 号

平成 2 8 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成廿八年岳精流指標
気を養う

千代田岳精会三十周年記



垣大

開催の年に当たって

大会実行委員長 徳本 順風

千代田岳精会とは昭和六十二年二月、初代会長の故飯田精鷹先生が中心となり、千代田区丸の内・明治生命本社七階講堂で産声をあげ今日に至っています。以来、絶え間ない会員増強活動と教場の増設、会全体を横刺しする各種研修会を推進してきました。

その結果、発足当時数名の会員が現在では三三〇名を優に超し、岳精流第一位の規模に発展しています。そして今年は会発足三十周年にあたることから、来る十一月二十日（日）浅草ビューホテルで記念吟道大会を開催することになりました。その為、昨年二月に会場の選定、同五月から十一月にかけて大会企画委員会でプログラム素案とスケジュール表を作成し、十二月には実行委員会を発足させました。実行委員各位ならびに会員の皆様と力を合わせて大会の遂行に万全を期したく存じます。どうか皆様、ご協力よろしくお願い致します。

ところで、千代田岳精会の会員は平成十八年の二十周年から今年の三十周年の十年間で入会者が約二五〇余名となり、二十周年以前からの会員八〇余名の三倍となっています。それに鑑み、昨年の企画委員会で「大会のコンセプト」を次のよ

うに決め、大会運営の指針とさせていただきます。

一、規模拡大（教場・会員数）、組織の強化（各種研修会の組織化・会の諸行事への会員全体の参加意識の向上等）に努めてきた千代田の姿を会員及び外部参加者に見ていただき、認識を深めていただく機会にする。

二、礼節の行き届いた大会運営に心掛ける。

三、会員の出席を出来るだけ優先し、会員のための大会とする。

四、構成吟は「真・善・美」を詠った詩を考える。

（宗家信条、真善美は我が千代田岳精会における詩吟活動の基本理念であるため）

以上、千代田岳精会三十周年記念吟道大会への取組みと心構えを述べてきましたが、愈々本番の年を迎えました。岳精流随一の会に恥じない立派な大会を迎えるべく全力を尽くす所存です。

どうか会員全員参加で、力強いご支援・ご協力を重ねてお願いする次第です。

飯田精鷹先生のご逝去を悼む

常任顧問 磯田 精信



「人生別離足る」（于武陵）
ーサヨナラダケガ人生ダ

（井伏鱒二訳）

この詩の思いが、日増しに胸に迫る今日この頃です。飯田先生を偲び、悼みながら数々の想い出話を書かせて貰います。

飯田先生と吟との出会いは伊達政宗の「興を遣るの吟」墨痕鮮やかな先生の色紙を戴いた事が始まりでした。旧明治生命の職場でそれなりの知合いの仲間がこの色紙によつて先生と生涯を共にし、生き甲斐の基とする吟キチ人生となりました。

遣興吟 伊達政宗

馬上青年過 詩平白髪多

この色紙が千代田、第一号生徒の契機でありました。明治生命詩吟同好会の揺籃期「飯田塾」時代（昭和五十九年〜六十二年二月）の記憶定かでないが往時は仲良しクラブ、飲み仲間、春秋の歩き仲間、ゴルフ仲間等の集まりであった。

往時の想い出

その①同好会？発足当時、生徒は故田中氏と私の

二人の時代があった。教室は明治生命館大講堂。ある日私は麻雀で、田中氏も所用で欠席。誰も居ない教室で、一人で先生が吟じて帰られたことがあった。

（先生ゴメンナサイ！）

その②一対一の教室は時間充分、中身は濃い筈で

あるが節調が中々とれない。王維の「**元二の安西に**」の最初の「**渭城の朝雨**」これが何回やっても覚えられない。思い余って昼休み、皇居堀端の遊歩道で先生にお願いして教えていただいた。今昔の念に堪えない。

その③千代田って何処？

教場が初めて京浜合同教場大会に参加した時、受付で「千代田教場です」と手続きを済ませようとしたら、受付の人が怪訝な顔をして隣の人に囁いている。「千代田？何処にあるの？」哑然とした私……。私達の千代田はそんな存在、口惜しかった。今では岳精会の中で名実共にトップクラスの千代田、今昔の思いに堪えない。

その④千代田を吟道大学にしよう！

会員を増やそう、指導者を増やそう、組織体制を固めよう、研修を充実させよう！

会員の皆々様がご承知のように現在の会員は

三〇〇名を超え、組織は四支部、二十六教場、研修は連日至る所で：。飯田先生の念願は叶いつつあります。

在りし日の飯田先生、締めくくりは飯田さんと呼ばせて頂きます。その方がしつくりと気持ちに通じ合う気がします。本当に公私共に深く感謝申し上げます。私の吟キチ人生はこれからも暫くは続くでしょう。しかし浮世のならい、今は幽明を異にしても何れの日かお互いに蓮の台の上で共に吟ずる日も必ず参ります。

生前の厚情に深く感謝！在りし日の飯田さんを偲び、ご冥福を祈り拙文を閉じます。

合掌



秋の昇伝審査会

二六名が受審しました

師範及び奥伝以上の審査は毎年、文化の日に全国で行われています。今年も本部審査が秋晴れの十一月三日に、かわさき保育会館で実施され、師範・準師範の次の方々は筆記と面接、高段者は指導本部員の吟技審査を受審され、優秀な成績で全員が合格されました。

お目出とうございます。

奥伝

本多 里風（日暮里）

小林 公風（志 茂）

藤原 寿風（丸の内清流）

太田 龍箭（東陽町支部）

山崎 楊風（神 田）

菟場 一山（丸の内支部）

田村 菊山（東陽町支部）

増子 梨山（銀座）

勝村 忠山（神楽坂）

荒井 彩山（調 布）

小谷野弘山（熊 谷）

宮川 丞山（神 田）

本多 京山（神 田）

松尾 宝山（ハザマ）

準師範

皆伝師範

奥伝師範

大飼 勇山（ハザマ）
関川 慶山（ハザマ）
浦谷 江山（新 陵）
中野 陽山（新宿支部）
大堀 伯山（新宿支部）
後藤 佑山（新宿支部）
波治 舞山（新宿第二）

奥伝審査を受審

志茂教場長 小林 公風

十年前に他流派の会の先生が逝去され、詩吟が好きでもっと奥深く勉強したいと思っていたところ、縁があつて千代田岳精会神田教場に入会させて頂きました。

この度奥伝を拝受となり、感無量です。「風」という雅号に責任ある立場となり、吟力の向上に一層努力したいと思います。宗家のお言葉で「指導は伝道・伝達であり、共に学ぶにあり」。しっかり認識して教場の皆様と勉強していきたいと思っています。まだまだ未熟な教場長ですが、助けられながら「行くのが楽しみ」と言われる教場でありたいと思います。

今後も鈴木精成会長、諸先生方のご指導よろしく
お願い申し上げます。

中伝準師範試験を受験して

新陵教場長 浦谷 江山

昨年受験資格がありましたが、都合により今年の受験となりました。

試験当日、川崎市の試験会場に参りますと、百名を超すと思われる各段位の受審者の方々が集まっておられ驚きました。筆記試験は明らかに満点とはいきませんでした。漢詩の作者を答える問題で、普段から中々覚えられなかったからです。鉛筆を持って用紙に向かう試験は、何十年振りかの出来事でしたから、試問に対して的確に記入出来たか恥ずかしい限りです。

何れにしましても、今後はこれまでの習う立場から一歩進んだ立場での吟詠活動に入ることになり、心して取り組んでいきたいと思っています。まだまだこの道における若輩ですから、よろしきご指導をお願いいたします。

中伝準師範になりました

ハザマ支部副教場長 犬飼 勇山

ハザマ組には昔から「ハザマ十年」という言葉があります。十年やり続けなければ偉そうな口は利けない、という事です。

その十年までまだ二年もあります。でもその時は六段、どうして偉そうに言えましようか？考えてみると、入会して右も左も分からなかった時の

方が、気楽に楽しく吟じられていたように思えます。奥が深いというか、やればやる程、知れば知る程、難しく感じられ解らなくなってしまうているのが現状です。

総伝まではまだ二十年の道程です。でも考えようによつては、総伝を目指して頑張れば、あと二十年、吟を続けながら生きられるという事になります。有難い事です。好きな吟を楽しみながら九十歳以上まで長生き出来る……。いい友達を持つて幸せです。

総伝になるまで続けます。

準師範

神田副教場長 宮川 丞山

この度、準師範を受験し合格させて頂きました。これも偏に鈴木会長、池田教場長をはじめ諸先生方のご指導の賜物と深く感謝いたしております。既に喜寿を過ぎた身でありますので、私の残された時間を考えると一日たりとも無駄にすることは出来ず「日に新たに」進歩しようとの意識を強く持ち、吟力向上に可能な限り努力しようと考えております。今後とも従前に増したご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

準師範を受験して

丸の内支部 菟場 一山

去る十一月三日・文化の日に、中伝準師範を受験させて頂きました。早いもので岳精会に入会して、八年が過ぎ九年目となりました。これも

ひとえに諸先生方、諸先輩方のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

試験当日は筆記試験が五問出て、その中の一問は「本年度の宗家の指標を記し、自分の思うところを述べよ」との問題でした。

指標とは「日に新たに」で、中国の古代王朝「殷」を築いた湯王の言葉です。意味は「日々努力を重ね、心を磨いて、自己を啓発していかねばならない」。まさに、現在の吟に取り組む姿勢であり、まだまだ取組みの弱さを痛感しております。今後は礼と節を重んじ「真・善・美」の心を持つて学ぶことへの感謝の心を忘れず、世の為、人の為、吟友を迎える心を常に持つて吟の向上に努めたいと思います。また、これまでの習う立場から、指導することを流統から認められたということで、今後はますます自己研鑽に努めたいと思います。

準師範の資格に恥じないように精進してゆく所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

準師範試験に合格して

ハザマ支部 関川 慶山

準師範となり、これまでの習う立場から指導することを認められたということになりましたが正直、力不足を感じています。入会して九年余り指導を受けて来ました。指導する立場になるなど考えてもいなかったもので、のんびりと詩吟を吟じる事のみを楽しみに過ごしてきた年月でした。勿

論、教場で一般的なことの指導は受けてきましたが、奥が深いことを実感しています。

試験当日は、家元先生から激励のご挨拶に続き、宗家先生から師範としての心構えについてのお話がありました。特にペーパー師範になる勿れとお話が印象に残りました。続いて筆記試験になり、漢詩とその作者、吟譜付け等の問題に続き、準師範となってからの心構えについて記せとの設問がありました。午後に面接試験となり、この中で「指導する立場になりましたね。人に教えるということは、人の三倍努力と勉強が必要である。日々に新たに自分を磨き、しっかりと勉強するように」との指導がありました。

今後は微力ながら努力して先輩方の足元に近づき、ペーパー師範とならぬ様にやっていく所存です。



下田岳精会と交歓

秋の伊豆路を堪能

「創立三十周年記念吟道大会」を来年に控え、今年は温習会が実施されない事は年初から決ま

っていたが、その代わりとして「下田吟行会」が吟楽部門で企画され、十一月十五日(日)・十六日(月)に挙行された。当日の予報は雨後晴れ、出発地は西新宿工学院大学前。鈴木会長以下八十名の参加者は傘をさして集合。予定通り二台のバスで首都高速道に入り伊豆半島を目指した。

途中、熱海で来宮神社へ詣り、樹齢二千年といわれる御神木・楠は一度周りを回ると寿命が一年伸びるパワースポットと説明があったが、何度か回った人は少なかったようだ。天候も回復し、渋滞もなく海岸通りを過ぎて今日の研修会場「須崎漁民会館」に到着。会館前には杉江精寛下田岳精会・会長をはじめ多くの会員の方が出迎えて下さった。

集会所の舞台正面には会員の方々の手で、「歓迎 千代田岳精会吟行会」一行様」と大書掲示され、早速本日の研修テーマ「今、なぜ、山頭火」の講演を渡邊豆泉先生(下田岳精会)から拝聴する。先生は、静岡県で高等学校の校長を務めながら山頭火の研究を長年に亘って続けられ著書も出されている方で、ご準備頂いた資料をもとにお話しいただいた。研究者ならではのエピソードも交じり、参加者は熱心に聴き入って予定時間が短く感じられる内容であった。

続いて磯田精信常任顧問から、新体詩「山行水行」、俳句「越えて行く」の指導を受ける。千代田岳精会・下田岳精会の吟歴の新しい会員が指名され、堂々と吟じて各々講評で締めくくった。最後に下田岳精会の会員の方々が登壇し「下田賛歌」

で歓迎して下さった。

宿泊の下田ビューホテルは日曜日ということもあって、貸切に近い状態で伊豆の「海の幸」満載の料理を堪能した。朝から聊か声出しが不足していた参加者は早速カラオケとなり、予定時間では物足りない方々はカラオケ室で遅くまで盛り上がっていた。

翌朝、東の海からの日の出は、暫く天候に恵まれなかった我々には神々しいほど美しかった。二日目は伊豆の秋と味を堪能しながらの観光。お土産を手には、海老名サービスエリアで神奈川方面の会員を降ろし出発地新宿に無事帰着。日頃交流の機会の少ない教場間の交歓という効果を加えて終了した。

お世話頂いた吟楽部門 石田勝山リーダー、太田龍翠サブリーダー大変でした、有難う。

磯田精信常任顧問 渡邊豆泉先生

教場だより

芝大神宮秋季大祭 奉納吟

清水 星野 久風

今年も清水教場では、芝大神宮秋季大祭、通称「芝明神のだらだら祭り」(九月十一日～二十一日迄) 期間中の十四日(月)、参集殿をお借りして練習しているご縁から詩吟を奉納した。

当日は鈴木会長も参加され十二時、全員拝殿に集合。神官による祝詞奏上、会長と教場長の玉串奉奠の後、各自神前で力強く吟詠した。

市倉妙子「名槍日本号」 神谷知泉「青門の柳」
鈴木秀泉「富士山」 金岡博人「春夜」 金井俊夫「従軍行」 矢崎春男「芳野懷古」 宮野信子「夜墨水を下る」 森坂雄泉「金州城下の作」 湯浅和泉「廬山の瀑布を望む」 原口美泉「事に感ず」 櫻田謙泉「彦山」 小蔦正泉「烏衣港」 三好弘泉「立秋の雨」 細川修泉「山中問答」 堀田宣泉「九月十三夜陣中の作」 船津英山「汪倫に贈る」 望月輝山「九段の桜」 大木栄山「某楼に飲す」 渡邊華風「山間の秋夜」 湯山申風「坂本龍馬を思う」 星野久風「名槍日本号」 徳本順風「九月十日」 村上龍道「九月十三夜陣中の作」 最後に鈴木会長の「菊花」で締め切った。

吟じている間にも拝殿前には参拝者が次々と訪れ、聴き入って下さっている方もかなり見られ

た。



芝大神宮にて (平成二七年九月一四日)

城戸龍城先生の死を悼む

ハザマ支部教場長 萩原 晴風

千代田岳精会顧問の城戸龍城先生が十月二十日、八十三歳で逝去された。

先生は平成七年東陽町教場に入会、二年後の平成九年にはハザマ教場（ハザマ社友会詩吟同好会）を立ち上げ、副教場長として初代鈴木教場長を支えられた。会員も三年後には二十三名となり、その後教場長に就任、現在は六十名の支部教場を戴けるまでになっている。

「元氣なハザマ教場」「実力のハザマ教場」を唱えて実践された先生でした。「声を元氣よく前に出せ」「他教場に負けるな」の指導で会員を鼓舞されました。コンクールにも熱心で、会員の都予選への参加・指導はもとより、先生ご自身も「東日本で代表になって、全国大会に一度は行きたい」との目標を持って努力されていました。

教場は発足から男性路線でしたが、「艶のある教場に」と女性会員の入会活動を展開され、時宜を得て千峰流との交流が始まりました。剣舞には女性が多い。先ず我々が剣舞に入って稽古を共にし、その後に剣舞の女性を教場にお迎えする作戦は実行に移されました。城戸先生は道着を持って荻窪の千峰流カルチャー教室に通われた。

剣舞は足腰の、特に膝の柔軟性が求められます。

何回かの稽古を重ねるうち膝の屈伸が不能となり剣舞を断念されましたが、この熱意が金子宗家を動かし、男性リーダー一名、女性五名が一举に加入し明るい教場になりました。

歌を愛し吟を愛した城戸先生、現役の広島支店時代は、市内の有線放送から貴方の歌が流れる中を、仲間と闊歩した話を聞きました。黄泉の国でも大いに歌い吟じてください。

ハザマ教場創始者城戸先生を失ったことは痛恨の極みですが、今後は先生のご意思を、残された我々が継承して参ります。

長い間ご指導有難うございました。どうか安らかに眠り下さい。

合掌



年男。年女

今年の干支は丙申です

許証を頂いて

神田教場長 池田 康風

千代田岳精会に入会し、早や十九年。月日の経つのが本当に早い。多くの仲間、良き縁、良き友に出会え、私は人生の宝を得る事が出来ました。

先日、今まで頂いた許証を改めて一枚、一枚出してみました。平成九年に二級を頂き、二十六年に八段まで十五枚もの許証を頂きました。その一枚、一枚、こつこつと階段を昇ってきて今があるのだなと感じ入りました。よく此処まで頑張つて来られましたのは、元氣な主人の協力あってこそ思っています。

「お父さんありがとう！」と感謝し、健康で、今日いく。今日用がある。と忙しいですが、楽しい老後を過ごしたく思います。

またこれからの目標として、いかに詩情のある吟を吟じられるか頑張らねばと思い、良い申年の一年にしたいと思っています。

吟が上手になりたいんです！

新宿支部 石井 浩

吟と出会い、二年半が経ちました。

当初は最年少と持ち上げられ、パワフルでどうしようもなく魅力的な新宿支部教場の先輩に可愛がっていただき、吟も人間としてもまだまだ半人前ですが、気が付けば後輩も二十名以上に増えました。

孔子の言葉で「四十而不惑、五十而知天命」とあります。私、四十代も後半になりますが惑いはなしです。あと二年で天命を知ることが出来るのか？そもそも天命とは？考えるとまた惑いますが、ただ、もともとつと吟が上手になりたい！という感情は確信しております。

医療の現場では音楽療法が非薬物療法として注目されて久しく、音楽療法士という資格もあるといえます。先日「アンコール」という映画を観ました。厳格なイギリス紳士が大好きな奥様を取り、奥様の趣味である合唱を通して人生を取り戻してゆく……という映画でした。私の家内は幸いまだまだ元気ですし、人生を悲観的に生きている方でもないのですが、吟を練習していると「幸福感や生活の質が上がり、体もスツキリと楽しい」ということは私が体験しております。

天命というには大仰ですが、多くの人に吟を通じて役立つことをしたいと愚考しております。私は幸いにも秀でた指導者に恵まれて、多くの良い出会いもあるので、今後とも楽しく精進して参ります。

詩吟は中高年にぴったり

新宿第二 入住 章山

今年の干支は申、歳をとって七十二歳。現在の生活は仕事をベースに置き、詩吟・登山・テニスの趣味を楽しむ。毎日一時間前後のウォーキングを行い、健康長寿を目指す。歩く時は腹式で深く呼吸しながら腰から歩く。ストレスの解消に効果があるようだ。美味しい店の情報を見つけるとすぐに味見に出かけるのが好きだ。

詩吟は山の会の人の紹介で入会し、八年になる。詩吟の発声は胸を開き、腹式呼吸で行うので練習後のすっきり感が心地よい。いろんな大会の前に

皆で練習を重ねて、時に賞を戴くのは励みになる。数年前、武道館の全国合吟大会に出場、結果は銀メダル。背筋がぞーっとするほど感動した。生涯忘れられない良い思い出である。

明治大学の斉藤孝夫先生の本「斉藤体操」を読んでいる参考となったので以下紹介する。斉藤ゼミでは何時もハイタッチで始める。時には一分間のプレゼンテーションをさせ、先生が一人一人に口を極めて褒め上げる。その効果でゼミ学生の先生になる内定率は他のゼミより遥かに高い。理由はハイタッチで始めると一気に身体や心が開き、周囲と親密になる太陽効果が起こる。また、褒めることにより自信がつく。結果、内定率が高まる。

詩吟もハイタッチ以上に胸を開き、心を開いて吟するので気を放つ身体となり、太陽効果が高まるのではないか。詩吟の会には元気を振りまいて、場の空気を温める人が多くみられる。現代人とともに中高年は対人体温が低いと言われるので、詩吟は中高年にはぴったりだ。練習後の飲み会で酒が入ると会話が弾むので楽しいひと時が過ぎる。

私は詩吟のお陰でより良い人生を歩いている。

詩吟の伴奏をするようになって

丸の内支部 上村 逸泉

千代田岳精会丸の内第二教場に入会して二年を過ぎた頃、コンダクターを習うか迷っていることを山口教場長に電話したところ、是非やりなさいと言われ、野沢柳風さんの世話で早速、器具が

送られてきました。やらざるを得ないと思いましたが、どうやって練習すれば良いのか迷いました。月一回の夕方五時十分からの西山定山先生の研修に通うようになりました。始めた頃は、とても無理と思いましたが段々面白くなり、要領がつかめるようになりました。「岳精流基本吟譜」の読み方、呼称、音位、アクセント記号等まだまだ不十分ですが、少しずつ理解していけると思えます。毎練習日の吟題が決まると、岩崎先生から当日の譜面が先輩の窪田さんに渡され、先生の指導で確認して初めて皆様の伴奏が出来るようになりました。これも皆様のご協力のお陰と感謝しております。

最近強く感ずるのは、皆様のやる気の強さです。朝早くから熱心に詩吟を学ぼうとする姿勢です。ひしひしと強く感じております。伴奏にあたり益々ミスしないようにと心掛けていますが必ず間違えます。ご容赦下さい。

教場長はじめ、諸先生方、吟友の皆様、今後共宜しくご指導、ご鞭撻の程お願い致します。

丙申の思い

日暮里 柿山 里山

新年お目出とうございます

昭和の一回目の申年生まれです。誕生の年に肺炎、何とか助かりました。次の申年の翌年には、我家が敵の焼夷弾で全焼し、山形県に疎開し、食料は無く六十年に一度実を結ぶ笹の実（笹麦）を代用食として餓死を免れました。平和の尊さを思い知

らされました。

戦後の明るい思い出は水泳界で古橋選手達の活躍でした。日本国民皆が勇気づけられました。その後、湯川、朝永両博士等のノーベル賞の受賞が人々に希望と光を与えてくれました。紙と鉛筆で素粒子論が展開されて、核物理の発展に多大な貢献がなされました。昨年十二月には宇宙線（ニュートリノ）が質量を有することを突きとめ、日本の科学者がノーベル賞を受賞されました。私達の宇宙観や身のまわりの本質が明らかにされようとしています。また、新年にあたり壮大な夢として現在の核分裂による原子力発電が、核融合による発電へと進化出来れば、我々人類にとって偉大な救いになるに違いありません。実現可能であることを期待し、見届けたいものです。

その為には第一に心身ともに健康であることが大切であり、しつかり長寿を願うならば「真・善・美」を基本とする吟道に精進し、吟を命として打込むこと以外に道はないと確信しています。皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

詩吟は活力源

丸の内支部 鎌田 国雄

新年明けましておめでとうございます。小生、干支の丙申に当たる故、恒例により「ちよだ」への寄稿の依頼を受けました。拙文ですが感想を記しました。

戦況が一段と厳しさを増してきた一九四四年二月、秋田で出生し今年で七十二歳になります。

還暦を迎えた時に、古希まで元気で仕事できるよう頑張ろうと目標を立てました。古希を過ぎ未だに大病もせず元気にこの時を迎えられたのは、三年前先輩に勧められて入会し、会長はじめ諸先生方の心の通った熱心なご指導とお互いの切磋琢磨して吟の向上に励んでいる多くの素晴らしい吟友と出会って、吟詠に励んでいるからだと思っております。

占いによると、今年の干支は六十年ぶりの丙申で「これまでの頑張りが形になっていく」年とのことです。これを機に、人生の目標を次の申八十四歳にし、詩吟を活力源に頑張って行きたいと思っています。今後とも諸先生、先輩方のご指導よろしくお願い致します。

詩吟は難しいが

勉強する毎に得をする

丸の内支部 川口 童山

平成二十年二月に友達の誘いで千代田岳精会丸の内第二教場に入会しました。詩吟習得手帳を見ると、いつの間にか四冊になっていますが、あつと言う間に中伝、山号の雅号を頂いております。この間無我夢中でした。鈴木会長先生をはじめ、岩崎・山口両先生等のご指導は勿論、一緒に勉強している皆さんのお蔭だったと思います。

また偉い人から詩吟の勉強は「声出し三年・節調五年・それから長くて詩情十年だが、お前は大丈夫か？」と言われた事がありました。今になると頑張つて良かったと心から思うのです。また、

ある人からは、

泉は、湧き出でる泉の如く清冽で、どんな事も

吸収していく力をつけること

山は、自信を持って堂々と、盤石の意思を持って詩吟に打込むこと

風は、頬を撫でゆく微風あり、時には吹きまくる強風、また或る時は暴れまくる暴風のように、漢詩のなかに読まれている詩情を表現していく力を持つこと

岳は、富岳、八ヶ岳、旭岳等のようにその姿は何処から仰いでも優雅で威厳があるにも拘わらず、包容力に満ちた優しさを持つ人にならなければならない

と、教えられました。

私は今もって教場では同じ事を注意・指導されています。このことはなかなか克服出来ず困っています。しかし、気が付けばすぐにでも稽古に打込んだのです。お陰様で少しずつ矯正することが出来てきました。教場の皆さんとは勿論、多くの吟友とお付き合いができた事によって、今は心の世界を広くし、詩吟の良さを楽しんでいます。どんな事でも頑張ると、得をすることを知りました。

未だ富岳や八ヶ岳などまでは遠い処ですが、頑張ります。



ユングフラウ 星野久風(清)

吟詠挑戦五か月後の想い

新宿支部 櫻河 義弘

昨年五月、酒井帆風先輩から入会の誘いを受け、新宿教場で勉強させていただく事になりましたが、突然の訃報に驚き、またご本人の吟詠を一度もお聴き出来なかったことが誠に心残りでした。

入会后、先ず驚いたことは、当会の規模の大きさと運営組織が想像以上に充実していること。更に、毎回先生方の褒め言葉を交えたり、時折、発声は姿勢正しく腹から力強く出せ等と優しく、また厳しい親身な指導を受けられることでした。

何分未熟な私は腹に力を入れた力強い発声には程遠く、吟譜の理解、表現、漢詩や中国の歴史習得等に苦勞しています。然しながら先ずは、経験を積むことが大切と思い出来るだけ多くの漢詩、短歌、俳句に接しその詩情を味わいつつ学ぶと同時に、焦らず地道に努力していきたいと思っています。

授業後の昼食会は多少のアルコールも手伝って和気藹々。楽しみの一つです。

終わりに、諸先生方や仲間の皆様方に感謝し、今後ともご指導下さいます様お願い申し上げます。

丙申の年を迎えて

熊谷教場長 小林 明風

今年、熊谷教場発足五年目を迎えます。昨年は熊谷市の文連（文化連合）、羽生市の文連、また八十三回熊谷市詩吟詩舞秋季大会では「稗搗きの歌」を十一名にて合吟致しました。本当に皆さまにお見せしたい程の出来栄えでした。まだ五年も経たないのにと私自身自負しております。社会の流れは目まぐるしい限りですが「真・善・美」の教えを守り萬遍の吟の鍛錬によって私を含め教場の皆様の道が開けるのではないかと思います。今年の干支は申ですが、私は壬申（みずのえのさる）、これで何年生まれか分かるでしょうね。ある雑誌で猿は去ると読んで「災いが去る」「病が去る」といった意があるそうです。私もこれにあやかり赤い縁起肌着でも着て健康に留意し吟道に邁進したく思います。

また、今年は「千代田岳精会創立三十周年記念吟道大会」があります。企画委員会の方達に敬意を表し中庸の精神をもって無事成功されることを願っております。些かでもお力添え出来たらと思います。今後ともご指導宜しくお願いします。

五快を得る……快声には詩吟

新陵 柴田 豊彦



第83回熊谷市詩吟詩舞

定年退職を機に思い立ったのが、五快を得ることに努めようということでした。老後の生活を健康で快適に過ごす為に必要な要件ともいえる五快です。一に快眠、二に快食、三が快便。これ等三つの快は異常が感じられたら要注意だといふべき事項です。

四つ目は快カンなのですが、エクスタシーの快感ではなく、快汗即ち快い汗をかくことが健康に良いということで、一日一万歩の散歩を励行することにしております。冬場には散歩だけでは快汗を得るには至らないのですが、これを補ってくれるのが徒歩十分圏内にオープンした天然温泉です。ここでゆったりと湯に浸ることで快汗を得る事しております。なかでもお気に入りにはスチームバスであり、人の居ない時を見計らい、そこで吟ずることで将に快感を得ながら快汗を得ております。最後の五つ目の快は快セイです。快性に非ず、快声です。大きな声を出すことは特に精神面での健康に良いという事で、これへの対応法として選んだのが詩吟でした。

詩吟は学生時代の四年間に部活動で学んだものの、社会人となってからは全くご無沙汰となつ

ておりました。幸い在住の相模原市の老人大学に詩吟科があり、これに入学。卒業後その卒業生で組織するOB会に所属し、月二回の学習に参加しております。このOB会は親睦的要素が強く、楽しさとは別に吟そのものの上達という点からは些か物足りなさを感じておりました。

そんな折、大学の先輩から誘われたのが、岳精流の新陵教場でした。ここに集う人は詩吟に対して(詩にも吟にも)研究熱心な人が多く、大いに刺激を受けつつ楽しく学ばせて貰っており、快声には詩吟が最適であることも再認識させられております。そして快声は独りよがりの快声ではなく、聴く人にも快く響く吟Ⅱ快声でありたいと願ひ、これを磨いていきたいと思う昨今です。

吟の美しいリズムに感動

新宿第三 船場 由紀子

入会させて頂いてから早いもので一年が過ぎました。詩吟とはどんなものかも、漢詩の意味も、吟ずる楽しさも何も分からないまま「初吟会」に向けて、続いて「温習会」「昇伝審査」と緊張する事ばかり慌ただしく時が流れて行きました。

また、五月には熱海での一泊二日の吟行会にも参加致しました。皆様の吟を拝聴させていただき、吟の美しいリズムに感動致しました。ただその半面、自分の音感の悪さを改めて認識したものです。頭では理解出来て心の中で吟じて、いざ自分の番となり声を出そうとしても、思っている声は中々出てくれません。「真・善・美」が理解出来る迄

にはどの位かかるのでしょうか。

教場長さんも新しく宇田川さんに替わり、熱心で親切なご指導、本当に感謝申し上げます。練習後の食事会だけは一人前、独吟について行けるようになるには、まだ時間がかかりそうですがどうぞ宜しくお願い申し上げます。

詩情を込めて吟じたい

神楽坂 塚本 百合子

人生経験も自慢できるものではなく、今になって詩吟に夢中、前回の教場での注意箇所も直せず、ア、また失敗かと反省ばかり。でもいつの日か教場の人達と肩を並べて、堂々と胸を張り吟じられる自分になりたい。

吟友達は正確に、そして腹式呼吸も取り入れ、時には新宿の本部へ通って磨きを掛けている。

私も気合を入れて頑張るぞ!先日、教場長から貴方の声は短歌に最適だと褒められた。石川啄木の「幾山川:」「砂山の:」満身に詩情を込めて吟じたい。

私の健康法

丸の内清流 西川 広規

日本人の平均寿命も益々伸びて、平日の昼間に外出すると高齢者の方々をとっても多く見受けられます。私の周りの皆様も歳をとっても毎日元気で過ごしています。

そこで、私なのですが七十歳を過ぎて、近頃足腰の衰えを実感しています。これではいけないと

何か健康法がないかと色々試した結果、三つの事に取り組んでいます。

一、運動 私の場合は歩くことです。本当は早起きして近所を歩くのが一番良いのですが、なかなか難しく、名所旧跡を訪ねて回っています。そしていずれは漢詩に因んだ跡も、と思っています。

二、歌 腹式呼吸、正しい発声で大声で歌うと、かなり腰に響きます。これが体に良いのです。う。

三、食事 バランスのとれた良い食事、これが一番大切だと思います。従って食にはほんの少し贅沢をしています。

以上、簡単な事ですがこれでストレス解消になり、楽しく生活を送ることで余命があと十年位伸びる様な気がします。

どうぞ皆様も吟で健康に、吟で豊かに、吟を楽しんで、長生き出来ますように心からお祈りいたします。

残軀は天の許す所

我孫子教場長 二宮 祥風

「馬上青年過ぐ」 私にとつての昭和は正に激動の時代であった。戦争末期には夜間の空襲で我が家に焼夷弾数発が落ち、B29の爆音を聞きながら夜を徹して消し止めた朝の虚脱感。飢餓の時代が続いた。

学校を卒業して建設会社に就職した。世は石炭の時代から電力の時代に移り、水力発電所の建設

が急務であった。私は奥利根発電所工事で研修を受けた後、佐久間ダム工事に従事した。日曜・祭日もなく昼夜二交代制・一日十二時間勤務で突貫工事の末、僅か三年で発電を開始するという偉業を成し遂げた。その後、岐阜県白川郷の御母衣ダム工事に従事、雪に閉ざされた厳寒のときは大井川のダム現場へ山奥ばかり歩き……

昭和三十六年に南ベトナムの発電所工事に転勤。それからはラオス、タイ、マレーシア等東南アジア各地の山奥で水力発電所工事に従事した。銃弾の飛び交うこともあったベトナムやラオス、ゲリラの襲撃で犠牲者を出したマレーシア等々、数奇な体験には事欠かない。

そして「時平らかにして白髪多し」である。医者の手際で左眼の角膜を損傷し、文字通り独眼竜となった。

「残軀は天の許す所」 今は吟楽の日々である。詩吟の日は痛む腰に膏薬を貼り、家内に笑われながらいそいそと家を出る。我孫子教場の日には朝から新鮮で旨そうな魚を捜し、野菜や肉を加えて料理を作る。詩吟の後、吟友とこの手料理で盃を傾けながらの語らいは、正に至福の一時である。

毎月第二、四月曜日四時に開店します。お時間のある方はぜひ遊びにお出で下さい。

吟と共に一年

桜が丘 平井 恵子

詩吟とのご縁をいただいたのは一年前、介護士の仕事を始めた頃でした。

六十歳を前に体力的に仕事を続けて行けるのが不安でしたが、やはり一日中汗だくで動き回りヘトヘトになります。お休みの日はグツタリで動けなくなり、教場を欠席することもありました。しかし、廣田先生の「来れる時でいいのよ」という優しいお心遣いや、私が欠席した時に資料を郵送してくれ、教場の様子を教えてくれる一緒に入会した二十年来の友人の支えがあり、続けることが出来ています。本当に感謝の気持ちで一杯です。この一年間、仕事も詩吟も無我夢中でやってきました。先生、友人、教場の皆様の吟を聴くことで元気を貰い、進歩は遅くても永く続けていきたいと思えます。

入会して二度目の年女

桜が丘教場長 廣田 了風

平成十年九月、入会して以来二度目の年女を迎えます。仕事を持ちながらの詩吟でしたが、何時の間にか教場も開設させていただき、満五年になりました。

真剣に吟を学んで来なかったのが今は少し悔やまれますが、習い事を始めるのに遅いということとは無いと申します。今は生徒さんと共に教室で吟を楽しんでおります。まだまだ未熟な教場長ではありますが、申年の年女として新たに初心に帰り、吟力・指導力を先生方、先輩方のお力を借りて精進して行きたいと思えます。

思(う)い(と)い(と)

清水 星野 久風

遙けくも来たるものかなの感。平成八年十月、清水教場開設と共に入会してから足掛け二十年、吟力は遅々として進まないものの、健康に寄与していることの確かな実感はある。

前回小生の年男原稿には、元日恒例の「大山詣」のことを書いたが、この行事も最近は年初は無くなり、年一回は実施しているものの、体力の減退とともにケーブル利用となった。

昨年は十一月中旬、ケーブルで阿夫利神社・下社に上がり、見晴台まで歩いたあと日向薬師へと降りるコースをとった。紅葉が見頃で奇麗だった。今年は晴れた日の十月、五十年ぶりに新しくなったケーブル車両で下社まで行き、大山寺経由で下山したが、すごい混雑でケーブル待ち三十分以上だった。

今後も健康のバロメーターとして、山行きは続けたいと思っている。

詩吟禁止の七年間

丸の内支部 本田 親泉

私は、鹿児島出身です。小学校五年生になると、昔は頼山陽に称えられた「健児の舎」という若者



塾へ入れられました。鹿児島県の若者はここで学校教育以外の教育を受け、人倫を学んでいたのです。さて、それが昭和二十年八月十五日の敗戦によって日本全土に米軍政が施かれ、鹿児島にもボー少尉を隊長とする連合軍が乗り込んできました。そして万事を連合軍の命令どおりやる事になり、軍国主義と見做された詩吟も出来なくなりました。

こうして七年、やつと講和条約が結ばれ日本は独り立ちしました。しかし暫くは世情は左傾化し、詩吟への異端視は続きました。でも何かの席で、杜甫の「春望」などを恐る恐る出してみると「国破れて山河あり」に人々が共感するのでしょうか。受け入れてくれるのです。私は二十歳になっていました。長いこと詩吟やっていませんから無茶苦茶です。うる覚えの吟でした。それがこの二十年ほどで農家の小父さんも、タクシーの運転手さんも詩吟をやつてますと仰る。嬉しくなりました。今は、私も川口童山さんの手引きで岳精会を紹介していただき、本格的に習って大満足です。

詩吟は何よりも健康に良い、そして歴史を学べる、故事来歴も覚える、そう言つて人に勧めていきます。

命ある限り続けたい、が目下の野望です。有難うございます。

丙申を迎えて

日暮里教場長 本多 里風

新年お目出とうございます。

今年で七回目の干支を迎えました。十二支の中で申(猿)が私の性格に一番近いのかもしれませんが。猿は「弘法も筆の誤り」の同趣旨に取り上げられるように、色々と例えられたり、また引用されたりにしています。融通が利くということでもあるのでしょうか？反面教師として向かい合うのも丙申を迎えての一つの課題にしたいと思います。

「見ざる、聞かざる、言わざる」も一つの生き方かもしれませんが、私は「見たい、聞きたい、言いたい」と積極的な生き方をしています。自ずから道が開けて来るような気がしています。昔話に出て来る猿は悪賢くて罰を受けましたが、一方では五穀豊穡の神の使いとも言われているようです。

これからの時世、安心して生きていく為に猿の賢さを生かして、世の中の栗や蟹や白達を融和させ、円(猿)満にやつていくお手伝いをしていくのが申かな？と気負っています。

雑感「古稀と年男」

ハザマ支部 松尾 宝山

つい先日古希を迎えたばかりと思つていたら、今年はまだ七十二歳とは、何と時の過ぎることの速いことか。古稀の時は七十歳になつて「おめでとう」と祝福されることもあり、祝賀の気分であった。古稀と言えはその由来である杜甫の「曲江」が頭に浮かび、詩吟の世界へ誘つてくれて満々た

る気持ちにもなった。

しかし、僅か二年後に年男と言われると受ける感じが全く違う。七十二歳は干支が六回まわったことであり、次は必然的に八十四歳となる。男子の平均寿命が八十歳であることを考えると、もう一周することは決して楽観は出来ないと思える。ところが、詩吟の世界は世間とは違うようで、八十歳前後は千代田の中堅どころであり、従つて七十歳代は少壮となり、人生はまだこれからだと思えてくる。

自ら始めた詩吟ではないが、今では高齢化社会の先頭を元気に走る千代田に勧誘して頂いたことが幸運であつたと思う。これからも余生を豊かにするために詩を吟じて、詩吟に支えられて吟道を学び、また剣詩舞道に精進していきたい。吟縁のすべての諸先輩、吟友に感謝します。

健康寿命法

生田 三島 悟

「AKB48」と言えばシニア世代でも誰でもが知る人気アイドルグループだ。では、「KBG84」をご存知だろうか？新聞・テレビ・ネット、更にはあのBBCニュースでも「天国に一番近いアイドル」として取り上げられ、海外でも話題になっているので一度は眼にし、見た方も多いのではないかと思う。沖縄・石垣島から船で三十分の小浜島(K)ばあちゃん(B)合唱団(G)平均年齢八十四歳、この頭文字がグループ名の由来だ。メンバーは全員八十歳以上、七十歳代以下は研究

生、最高年齢は九十七歳。オリジナル曲を制作し、東京でもライブを開催、ステージに立つて歌と踊りを披露する、明るく元気に我が人生を謳歌する何ともパワフルなおばちゃんグループだ。

NHKの紅白歌合戦に出ることが今一番の夢とのこと。シニア時代の私達に勇氣と希望を与えてくれる存在である。今や日本は世界でもトップの長寿国。厚生省は単に寿命を伸ばすだけではなく「健康寿命」即ち介護を受けたり寝たきりにならずに日常生活を自立して送れる期間を伸ばすことを提唱している。同省によれば二〇一三年の日本人男性「健康寿命」は七一・一九歳（女性七四・二一歳）。丁度私の年齢と重なる。同世代の会社OB・学校仲間を見ても周りには元気な者が多い。私が所属する生田教場でも、上世代の先輩方のご健勝ぶりを近くに見て、自分もあの年齢まで吟もお酒も元気でやれるかも、との勇氣と希望をいただく。「KBG84」のおばちゃん達も今年は平均年齢八十五歳、認知症とは無縁、幾つになってもやりたいことが一杯という。「健康で長寿」のお手本にしたいものである。

生命の奇跡

（私の身代わりで戦死した事実、

故伊藤金次郎氏）

清水 湯山 申風

この事実は私が中国河北省塘沽の港湾工事に在勤中現地召集を受け、昭和十九年一月戦争末期の頃、配属先は独立歩兵第九大隊（通称、衣第

三〇四〇部隊）であった。

入隊後一期の教育が終了して所属に在籍していたら、上官の命令で「湯山と伊藤金次郎、両名は、被教育者として衛生兵教育を済南陸軍病院で勉強せよ」と派遣された。兎に角軍医の片腕となつて人体構造・救護法・医科治療・その他諸々の知識を三か月の間に会得させられた。

ある日、突然上官の命令で二中隊の内、一分隊基地に私は分隊付きの衛生兵として派遣されることになったが、分遣隊が発する前日、陸軍病院で第三期防疫のA型パラチフスに罹患して病棟に隔離され原隊復帰が遅れた前出の伊藤金次郎氏が、私の代役で分遣隊付きとして出発を命ぜられ私は本部に残った。分遣隊を見送り、一週間も経たない或る日、悲痛な連絡が入り、分遣隊全員が戦死した。情報によると毛沢東直系の八路军に包囲され、衆寡敵せず全滅の憂き目に遭った。わけでも当然私が遭遇する筈が、不運にも伊藤金次郎氏が身代わりとして彼は今英霊の神として靖国神社に祀られている。毎年、部隊詣でを挙行していたが戦友も高齢化し、また鬼籍に這入られ、現在、毎年初詣か慰霊祭に靖国参拝を心掛け、英霊の冥福を祈念している。

第四十七回

全国吟剣詩舞道連盟 武道館大会

前号で内容についてお知らせした合吟コンクール大会は十一月八日（日）に開催され、男子チームと女子が総本部チームで出場しました。八時、小雨降る靖国神社参道に集合した男子は声嘶らしをして会場へ、男子チームでは一番元気よく大きな声であったが結果は惜しくも入賞に至らなかった。

全体では、六郷女子チームが二位、総本部女子チームが三位の榮譽を得た。出場の女子の皆さんお目出とう。他に三チームが入賞と岳精流の健闘が目立った。十一回の、基礎から繰り返した練習の効果が今後に発揮されることを期待します。

「漢詩を作る会」発足します

千代田には詩歌、演奏、剣詩舞、俳句の四研修会があり、それぞれ活発な活動が続けているが、この度「漢詩を作る会」が神奈川県漢詩連盟に講師をお願いして二月からスタートします。

日時 毎週第一木曜日

十五時～十七時



教室 明治安田生命・新宿ビル

地下一階 第四会議室

入会金 二、〇〇〇円

資料代 毎月 五〇〇円

漢和辞典を用意のこと

入門講座としてスタートし、漢詩を作れるレベルを目指します。

現在、総本部の教室で経験を積んでいる次の方々に世話をお願いしました。

リーダー 犬飼堯山鎌倉教場長

サブリーダー 窪田龍溪丸の内副教場長

同 犬飼勇山ハザマ副教場長



平成二十八年

全国吟詠コンクール

二年毎に開催される岳精流コンクール（独吟）が次の通り行われ、千代田からは次の十一名の方達が出場します。

一般の部 鎌田国雄、石母田敏江（丸の内支部）

協阪守（東陽町支部）湯浅和泉（中野）

小浦場博（ハザマ支部）

小柴藤泉（新宿）町井澄山（鎌ヶ谷）

寿栄の部 小林真風（草加）平井茂行（神田）

滝沢春山（ハザマ支部）

少年の部 小林俊晴（東陽町支部）

健吟を期待します。

【新会員紹介】

◇東陽町支部 熊谷教場

森谷 邦夫氏（九月入会）

何か趣味をと思つて熊谷市文化連合の冊子を見て、数ある団体の中から岳精会熊谷教場を選んで入会致しました。本当に良かったと思います。これから吟をより身近なものと感じ、実りある人生を送りたいと思います。ご指導よろしくお願いいたします。

◇同 熊谷羽生教室

谷口 明美さん（十一月入会）

何となく興味はありましたが、私には遠い世界と思つていました。大藤征泉さんのお誘いで、引つ込み思案の私を変えられるかなと思ひ、入会させて頂きました。これからは前向きに頑張つて行きたいと思ひます。

◇丸の内清流教場

金子 道子さん（六月入会）

六月に入会しました金子です。人前で大きな声を出すのが苦手でしたが、友達の藤原さんに宗家の公開講座に誘つて頂き、声を出すのがこんなにも気持ちが良いものかと思ひ、入会を決心致しました。先生、先輩方これからも宜しく

お願いします。

島田 勝子さん（八月入会）

二、三年前から加齢により声が出難くなり、悩んでいた時に菅原先生に出会い詩吟の話を伺いました。昔から興味を持っていたので、今回思い切つて挑戦することになりました。八月教場を見学し、即入会することを決意しました。

◇ハザマ支部 新陵教場

井口 博民氏（八月入会）

一、趣味という程のものは無し、下手なゴルフが唯一の楽しみ。
二、入会にあたり特別な抱負とて有りませんが、良い詩を口遊ぶと気分が晴れます。
三、まだ職にあつた頃、詩吟部であり、多少かじつた経験もあり、田川さんに勧められて入会しました。

小林 三郎氏（八月入会）

趣味は読書と日本の城廻りです。去年現役を退き、囲碁を始めたが、更にチャレンジするものを探していました。よき先輩からの紹介と晩年に父が詩吟をやっていたことを思い出し入会しました。詩吟を通じ感性を高めたいと思つていきます。

中村 嘉秀氏（十一月入会）

退職後、無趣味を解消すべくウォーキング、ゴルフ、旅行（神社・寺院）、書道、蕎麦打ち等に努力中です。東京陵水会の先輩、同期の皆さんに誘われての入会です。将来、親族の慶弔

時に気持ち伝えられたらと思っています。

◇ハザマ支部 生田教場

中村 龍一郎氏（四月入会）

はじめまして中村です。二反田奉泉さんの紹介で見学にきて、呼吸法の一つでもあると聞き、健康管理の一環として入会しました。大声を出す機会も少ないので、ストレスの解消にもなるかなと思って吟じています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

三島 悟氏（六月入会）

五月から始め、詩吟のイロハも分からぬ身、井田教場長はじめ先輩の皆様方の暖かい指導を頂きながら、見よう見真似の教場通い三か月音は外れる、伴奏は耳に入らない、声は途切れる等々苦戦の日々ですが、お腹から大きな声を出し、詩を吟ずることの楽しさを、回を重ねる毎に感じるようになってきました。基本を学びながら焦らずに精進したいと思っています。

◇新宿第二教場

荒井 千恵子さん（九月入会）

吟といえば、母が昔お稽古していたことを思い出しました。まさか自分が吟ずるなんて・・しかし三か月お稽古をしてみても、その醍醐味を感じつつあります。これほど大きな声を出すチャンスは殆ど無きに等しきです。毎回わくわくしながら参加しています。

◇清水教場

松岡 省一氏（九月入会）

詩吟を始めたきっかけは先輩の堀田宣泉さ

んの紹介です。元々、自身肺活量が少なく、息が長く続きませんので吟じることにより改善されるのではないかと期待しております。また、最近詩の意味を知る事で時代の風景や作者の気持ちを興味深く感じる楽しみも知りました。

訃報記事

◆中村 伯風氏（丸の内支部・休会中）

八月一日ご逝去されました。

享年九十歳 千代田創設時からの会員の一人でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆有馬 幸山氏（ハザマ支部）

十月十日ご逝去されました。

享年八十四歳 謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆遊佐 竹風氏（ハザマ支部）

十月十五日ご逝去されました。

享年九十二歳 謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆城戸 龍城氏（ハザマ支部前教場長・顧問）

十月二十日ご逝去されました。

享年八十三歳 ハザマ支部教場第二代教場長として、教場の基礎を作られました。ご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

バオバブの樹 チョベ・モワナロッジ内
星野久風（清水）



昨年は、昭和を代表した方々の訃報が後半に集中した。憎らしいほど強いと言われた日本相撲協会理事長・北の湖親方。最盛期に銀幕を引退し鎌倉に隠棲、大衆の前には一切姿を見せなかった伝説の女優・原節子。ゲゲゲの鬼太郎などのほのぼのとさせる妖怪漫画作家で、第二次世界大戦の激戦地ラバウルで左腕をなくした水木しげる。何れの方も人間としての魅力に溢れた昭和人だった。ご冥福を祈ります。

千代田としても会の創設者である飯田精鷹初代会長のご逝去。ご高齢であり、ここの処療養中とは申せ、古い会員にとって衝撃です。鈴木会長はの巻頭言、磯田常任顧問の追悼文を掲載しておりますが、更に大熊丸の内第一教場長、酒井新宿教場長、城戸前ハザマ支部教場長と幹部の訃報が続きました。何れも、会を飯田初代会長と共に支え今日の発展の礎となられた方々でした。

今号は千支が申年の二十名を超える方々からご寄稿を頂きました。何れも筆先から人柄が感じられる文章でした。

有難うございました。

(八田)